

H YOG

教区新報



兵庫教区教務所
ホームページ



兵庫教区教務所
facebook

発行所

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
[編集] 兵庫教区広報部

2017. 6 199号

伝灯奉告法要で満座

昨年十月一日から十期
八十日間の日程で始まっ
た「伝灯奉告法要」。第
二十四代即如前ご門主よ
り第二十五代専如ご門主
へと法灯を継承されたこ
とを、阿弥陀如来と親鸞
聖人の御前に奉告される
法要が、五月三十一日を
もつて満座となった。
法要は、阿弥陀堂、御
影堂の両堂で修行され、

法要後には、大谷宗家ご
臨席の「伝灯の集い」が
開かれた。
法要期間中、世界各地
からの参拝者は十五万人
を超え、兵庫教区からは、
八十日間で合計約一万三
千名を超える門徒・僧侶
がご縁に出あわれた。



満堂の参拝席

また、浄土真宗にこれ
までご縁がなかった方々
への取り組みとして、夜
の本願寺をライトアップ
しての特別参拝「花灯
明」や、国宝「唐門」の一
般公開など協賛行事も多
種にわたって行われ、法
要をご縁とした総来山者
数は延べ四十五万人を超
えた。

ご満座の法要には、結
衆三十名、列衆約百名の
僧侶が出勤。両堂は参拝
者で満堂になり、縁まで
参拝席が用意されて、多
くの方々がこのご勝縁に
出あわれた。

この日、京都市は気温
三十一度の真夏日となり、
熱中症対策として水と瞬
間冷却パックが用意され
る中での法要となった。

法要終了後、三時から
御影堂にてご消息発布式
が行われ、ご門主による
「伝灯奉告法要御満座の
消息」(二面に全文掲
載)がご親読された。

ご親読後、石上智康総
長に授与され、その後、
総長より決意表明が行わ
れた。



ああ、嬉
しいなあ、
寂しいなあ。
本堂にお参
りすると、
この方がお念仏申すよう
になられたのか、あそこ
にはあの方が座られて居た
のにと◆小一の時、「死ん
だらどうなるか教えに帰っ
て来て」と祖母にお願いを
した。「よっしゃ、分かつ
た」と祖母。心中で「そん
な子ども騙しな答えをし
て。帰って来た人なんか見
たことがない」と私◆小三
の時、祖母が亡くなった。
お通夜・葬儀、四十九日：
帰って来てくれなかった。
「やっぱりな、帰って来る
わけがない」「どうして
帰って来てくれないんだ」
と半々な思い。ああ、この
世は夢幻にして真にあら
ず。命ははかなくもろく、
いつまでも名残惜しい◆
本堂のお念仏同様、祖母
はその私をめぐりて亡く
なった時からすでに絶えず
「必ずお浄土に往生し、未
得道のものを救う仏に成
る」と還って来て、「南無
阿弥陀仏」とはたらいてく
れていた。ああ、よく出遇
わせていただけたなあ、温
かいなあ、南無阿弥陀仏。

播磨中組 光専寺 藤本智彰

伝灯奉告法要御満座の消息

昨年(2016年)の10月1日よりお勤めしてまいりました伝灯奉告法要は、本日まで満座をお迎えいたしました。10期80日間にわたるご法要を厳粛盛大にお勤めすることができましたことは、仏祖のお導きと親鸞聖人のご遺徳、また代々法灯を伝えてこられた歴代宗主のご教化によることは申すまでもなく、日本全国のみならず、全世界に広がる有縁の方々の報恩謝徳のご懇念のたまものと、まことに有り難く思います。

昨年(2016年)の熊本地震から1年を経過し、甚大な被害をもたらした東日本大震災から6年が過ぎました。改めてお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。どれほど時間が経過しても心の傷は癒されることなく、深い痛みを感じてお過ごしの方も多くおられるでしょう。なかでも、原子力発電所の事故による放射性物質の拡散によって、今なお故郷に帰ることができず、不自由な生活を余儀なくされている方々が多くおられます。思うままに電力を消費する便利で豊かな生活を追求するあまり、一部の方々に過酷な現実を強いるという現代社会の矛盾の一つが、露わになったということができます。

自分さえ良ければ他は^{ほか}どうなってもよいという私たちの心にひそむ自己中心性は、時として表に現れてきます。このような凡愚の身の私たちではありますが、ご本願に出遇い、阿弥陀如来のお慈悲に摂め取られて決して捨てられることのない身ともなっています。そして、その大きな力に包まれているという安心感は、日々の生活を支え、社会のための活動を可能にする原動力となるでしょう。

凡夫の身であることを忘れた傲慢な思いが誤っているのは当然ですが、凡夫だから何もできないという無気力な姿勢も、親鸞聖人のみ教えとは異なるものです。即如前門主の『親鸞聖人750回大遠忌法要御満座を機縁として「新たな始まり」を期する消息』には、

凡夫の身でなすことは不十分不完全であると自覚しつつ、それでも「世のなか安穏なれ、

仏法ひろまれ」と、精一杯努力させていただきましょう。

と記されています。このように教示された生き方が念仏者にふさわしい歩みであり、親鸞聖人のお心になつたものであるといただきたいと思います。このことは、ご法要初日に「念仏者の生き方」として詳しく述べさせていただきました。

今、宗門が10年間にわたる「宗門総合振興計画」の取り組みを進めておりますなか、来る2023(平成35)年には宗祖ご誕生850年、そして、その翌年には立教開宗800年という記念すべき年をお迎えいたします。

改めて申すまでもなく、その慶讃のご法要に向けたこれからの生活においても、私たち一人ひとりが真実信心をいただき、お慈悲の有り難さ尊さを人々に正しくわかりやすくお伝えすることが基本です。そして同時に、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはできなくても、それぞれの場で念仏者の生き方を目指し、精一杯努めさせていただくことが大切です。

み教えに生かされ、み教えをひろめ、さらに自他ともに心安らぐ社会を実現するため、これからも共に精進させていただきましょう。

平成29年 5月31日
2017年

龍谷門主 釋 專 如

実践運動計画書作成の願い

兵庫教区では、本年度より「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を教区全体で推進していくため運動計画書が作成された。

振り返ると実践運動は、今から五年前の平成二十四年から基幹運動の課題と成果を継承しつつ、さらに宗門内外にみ教を伝えていくため運動名称を改め宗門全体の活動として進めてきた。

しかしながら、教区では、実践運動教区委員会や組長会等において周知・勧励してきたが、教区内全寺院の皆様が直接手に取ってお伝えする手段がない現状であった。このたび作成した計画書には、宗派並びに当教区の総合基本計画、教区並びに各組の重点プロジェクトの目標、そして昨年度の事業報告、来年度の事業計画などを掲載している。

今年度各組で、実践運動



運動計画書

を推進していく上で、活用

いただくためのものである。また、各組に於いて開催を依頼している組同朋講座などの研修会の開催要項、各組で実践運動にかかわる準備を含めた取り組みを報告いただく実施報告書など、是非とも掲載しており、是非とも開催・実施に向けて各組で、話し合いをしていただく際に、この計画書を活用いただきたい。

さらに、宗派と教区が一体となつて推進している「子ども若者ご縁づくり」についても基本方針や推進体制など掲載しており、これを機会に、あらためて内容を確認いただき各組での取り組みや、教区で開催する「なまな毛検定」にも是非参加頂きたい。

この度初めてタイトルがつけられた。ご親教「念仏者の生き方」の最後に「実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めてまいりましょう。」とお示しくださつておられる。私たち一人ひとりの行動が期待されているのである。

悟りの智慧を味わう 6回継続全6回 (第4回)



「中道」ということ

最近、知人に誘われて、隣り村の禅寺の座禅会に足を運んでいる。

まだ夜が明けきらぬうちに禅堂に入ると、張り詰めた冷気のなか、本尊の十一面観音菩薩をはじめ、脇士の多聞天持国天、釈迦如来、薬師如来、不動明王など、諸々の仏様が私を迎えてくださる。座布を整え半跏趺坐で禅師を待つていると、「ゴーン。」「ヒューウ。」

集会を告げる大鐘の響きに、子鹿であるうかが、驚きの呻き声で反応する。やがて禅師が入堂し、静かに結跏趺坐。

「チーン、カッソカッソ。」一柱目の禅定が始まった。

釈迦族の王子として、何不自由ない裕福な暮らしをしていたゴータマ・シッダールタ(釈尊)であったが、王城の外に遊ぶことによつて、人間の根本苦(老病死)を目の当たりにすることになった(四門出遊)。

王城に戻った後も、そのことが頭から離れず、やがて苦悩からの解放を求めて、二十九歳の時すべてを投げ棄てて一人の出家修行者となった。

そしてまず瞑想によつて心を安定させ苦悩を離れることを実践する二人の師を訪ね、すぐに師と同等の境地に達したが、苦悩の根本的な解決には至らず師の許を去った。さらに肉体を苦しめることで心の平安を得ようと、断食によつて骨と皮だけになるほどの難行・苦行に六年もの年月を費やした。それでも心の平安を得ることができず、ついにシッダールタは、一本の菩提樹の下で覚悟を決めた。

「たとえ死に至るとも、悟りを開くまではこの座を立つまい。」こうして最後の禅定に入ったシッダールタが初めに至った境地とは…。

真の心の安らぎは、王子としての優雅な生活の中では得ることができなかった。また、出家してからの身を削るような厳しい修行の中でも得ることができなかった。これは、清らかなメロディーで人の心を癒す弦楽器の弦が、「ピンピン」張りすぎても、また「ポヨンポヨン」と

緩すぎても美しい音色を出すことができないように、人の生き方も苦行と快楽の両極端ではない。かたやらないこと(中道)が本当の心の平安を得る道だ、ということであった。

これを私なりに解釈すれば、「働くばかりではダメ、遊び過ぎてもダメ。働く時は働く、遊ぶ時は遊ぶ」というように、生活にメリハリを付けることが大切だということか。いったい、働くことの意味は何か。自分のため、

家族と共に生きるため、あるいは周りの人に喜んでいただくため。つまりは、人との関わりつながらりの中で生きていることを確かめることが、働くということなのではないか。遊びもまたシカリ。人との関わりの中で生きる人生を、気負わず緩まず成し遂げる。これが釈尊の言う「中道(＝仏道)」ということなのではないか。

学生時代に何度も聞いた釈尊の「中道」の教えをふつと思ひ出しつつ、こんなことを考えながら今朝も静かに座っている。目の前に鎮座します如来様は、そんな私をどのような思いでみそなわしてくださっているのだろう。

この参禅のひとつときは、今では私にとって、世事に追われて煩う心を休ませ、さらには思いを確かめる大切な時間となつて

掛龍西組西法寺住職

岩谷 教授

サマースクール開校!

兵庫教区少年連盟では、毎年夏休み期間に、サマースクールを開催している。今年も、阪神西組万徳寺を会所として開催する。本年度は、参加対象を小学四年生・中学三年生までとして、リーダー研修として開催する。併せて、サマースクールのお手伝いをしてくださるスタッフも募集している。今後、自坊等でサマースクールの開催を検討している方は是非お手伝いいただきたい。詳細やお問い合わせは、教区少年連盟担当まで。

第54回 兵庫教区少年連盟 サマースクール IN 尼崎

期 日 2017(平成29)年 7月27日(木) 12:30受付
～29日(土)12:00解散予定 <2泊3日>

会 場 阪神西組万徳寺 最寄駅【阪急塚口駅】
〒661-0012 尼崎市南塚口町8-22-10
電話 06-6429-8090

対 象 ①小学4年生～小学6年生まで
②中学1年生～中学3年生まで

定 員 40名(先着順)

締 切 7月7日(金) までに教務所までお申込みください。
※定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

お問合せ 兵庫教区教務所内 サマースクール係まで
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8-1-1
電話 078-341-5949 / Fax 078-341-8526



昨年度の様子(姫路城にて)

災害対応:『いざ』という時のために

セコム安否確認サービスをご登録ください

災害時、最初にすべきことは被害状況の把握と情報の共有です。

電話やFAXが通じなくても、兵庫教区の寺院は簡単に宗派へ被害を報告できます。

現在、64%の寺院が「セコム安否確認サービス」を利用しています。

以下の方は兵庫教区教務所、または組の「防災担当者」へお問い合わせください。

- ① メールアドレスの登録方法を知りたい。
- ② メールアドレスが登録できているか確認したい。
- ③ 登録したメールアドレスを変更したい。

～千問書を使ったクイズ大会～

第1回 なもナモ検定

参加者大募集!!

正解者にはスペシャルプレゼント!

なもナモ検定要項

- **日 時** 2017年8月26日(土)
13時受付 13時30分～
- **会 場** モダン寺(本願寺神戸別院)
- **参加費** 無料
- **対 象** 小学生から大人
- **申込み** 兵庫教区教務所まで
〒650-0011
神戸市中央区下山手通8-1-1
電話 078-341-5949
Fax 078-341-8526



主催: 兵庫教区子ども・若者ご縁づくり推進委員会

団体参拝のご相談は近畿日本ツーリストへ!

近畿日本ツーリスト

近畿日本ツーリスト株式会社 神戸支店 (担当: 宮崎)

〒650-0032 神戸市中央区伊藤町 121 神戸伊藤町ビル 8F 電話 078-392-2433 FAX 078-392-3822